

参画と協働を進める具体的な取り組み

高

重要度

低

やり方を工夫するもの

名称: 若者の参画のためのプログラム B 2

誰が	町民が
誰と	町や地域とともに
何を	若者が町や地域の活動に積極的に参加するため
何のために	同上
いつ	
どこで	町にある現在の組織と公募委員による協議会的なもの
どのように	
どのくらい	
いくらで	

名称: 若者が楽しめる行事・祭り B 3

誰が	町民が
誰と	
何を	集落の祭り(お囃子、神輿、獅子、神楽)を一同に会して祭りをする
何のために	交流
いつ	
どこで	
どのように	
どのくらい	
いくらで	

名称: 若者たちが庄内町に関心を寄せるためのプログラム B 8

誰が	町民(若者たち)が
誰と	町(行政)と一緒に
何を	年齢を区切って懇談の場を設ける
何のために	若者たちが町に寄せる思いを述べる機会を設けるため
いつ	
どこで	公民館単位で
どのように	町(担当職員)、自治会長、小学校PTAが中心となる
どのくらい	年1回7月ごろ 全長若者大会ができれば12月に1回
いくらで	各自自治会(学区単位)の持ち出し

名称: 町民情報力UP事業 A 2

誰が	町民が
誰と	町に対して
何を	○必要な情報を知りたいときにはどうすればいいか ○情報を提供したいときにはどうすればいいのかを求める
何のために	町民の情報収集・提供力UP
いつ	毎月1回程度、同じ日に開催
どこで	各公民館に町職員が行って
どのように	ある一定の説明をして、町民の話を聞く。開催時間の枠はあるが、説明を聞いて、言いたいことを言ったら町民は帰ってOK
どのくらい	町民が来る、来ないに関わらず1年間続けてみる。(ナイトサービスのようないメージ)
いくらで	職員の時間外手当(日中の対応の場合は必要なし)

※窓口の一歩化

名称: 情報の共有とつばやき A 7

誰が	町が
誰と	町民に対し
何を	町の持つ情報をHPでわかりやすく発信や公開を行い、町民からのつばやきを呼び込める仕掛けを行う
何のために	町民からのストレートな意見や、自由な発想、旬な提言を拾い集めるため
いつ	
どこで	情報発進課又は町民団体
どのように	・ツイッターの利用や電子メール等で ・町民が声を出しやすい媒体を用いて
どのくらい	年中
いくらで	町負担(町職員の人件費又は委託費)

名称: 条例の検証及び提言 A 6

誰が	町民からの代表者(選考方法や人数は要検討)
誰と	独立した組織として(干渉されぬ環境)町のサポートを受け行う
何を	条例の検証(アンケート・HP・ツイッター、メール等)町民から寄せられた意見等の分析及びそれに基づく提言を行う
何のために	より良い、より実効性のある条例とするため
いつ	条例発効時期より
どこで	町民から代表者による(仮称)「条例検証委員会」
どのように	
どのくらい	検証や提言がまとまるくらいの回数
いくらで	・町負担により委員会開催費 ・アンケート実施等の諸費用 ・事務費等

ぜひやってみるべきもの [優先度が高い]

名称: 町民の「きらり」登録制度 A 4

誰が	町民が
誰と	町と連携
何を	町民一人ひとりの持つ「きらり」(技能、知識、経験、趣味など)を登録し、その情報をもとに地域や町の行事で活躍の場をつくる
何のために	全町民がまちづくりに参加できるきっかけづくり
いつ	人材把握、登録、活用は随時
どこで	町内会、町(町主導ではなく、あくまで地域が中心となりきっかけをつくる)
どのように	①町内会: 町民の「きらり」を把握⇒②町内会、学区、町: その人材を講師やスタッフなどで活用⇒③活用された人材(町民): 町づくりに参加、役立つことの喜びを実感 ※まずは町内会などの小さいコミュニティからスタート
どのくらい	
いくらで	登録内容の記録用紙代くらいか?但し、個人情報取り扱いのため、情報管理には配慮が必要

※旧立川町で「地域人材活用事業」という一定の人材を登録する人材バンク制度があったが、この制度はより多くの町民をまちづくりの舞台に引っ張り出す(まちづくりに不要な町民はいない)ことに主眼を置く

名称: お見合い A 1

誰が	町民、町外のまちづくりに取り組んでいる人
誰と	まちづくりに取り組んでみたい人
何を	まちづくりに対し、自分のやりたいこと、やってみようこと、やったことのあることなどをデータバンク化し、マッチングする
何のために	まちづくりを推進するため
いつ	常時
どこで	町や委託されたもの
どのように	互いの人々をコーディネートし引き合わせる。
どのくらい	
いくらで	

名称: 条例制定後の成果を評価する制度 (ただし、条例の見直しは別組織) A 3

誰が	町民が
誰と	町民と
何を	町民にとって
何のために	条例制定後の変化の可視化
いつ	評価は毎年1回公表する
どこで	町民同士の組織がベスト(そこに役場職員はいらない)
どのように	中心となる町民(1人か2人)を中心に話を進め、成果を評価する。成果を評価する指標は別組織で作成する。
どのくらい	短期間でいいので3回程度は話し合う
いくらで	中心となる町民への報酬、謝礼を町が負担+会議の茶業代

名称: 町の魅力をマスコミや新聞等へ売り込む B 4

誰が	町民が 町が
誰と	
何を	町の話題をマスコミに伝える
何のために	町の話題を発信するため
いつ	
どこで	
どのように	地域での話題を集約できる機関[情報発信課?]に伝え、マスメディアに流す
どのくらい	その都度
いくらで	

名称: 将来の町の担い手実践的育成 A 5

誰が	未来の町の担い手(小・中・高生) ○できるだけ子どもたちの主体を重んじて行う
誰と	町や地域に対して
何を	自らのまちづくりの提案とその実践
何のために	将来の町の担い手の育成及びリーダーの養成。子どもたちが町に地域に関心をもち、将来の町に希望とパワーをもたらしてくれることを望んで
いつ	
どこで	町とまちづくり経験者と子どもたちにより学区、学校単位等で会を立ち上げる
どのように	学区や学校単位でまちづくりを提案、実践し、その検証まで行う
どのくらい	例えば年1階の実践に対する準備期間
いくらで	町が実践費用、予算を捻出 小(10万)中(20万)高(30万)

名称: 公開情報提供制度 B 1

誰が	町民及び町が
誰と	町及び町民に対して
何を	地域及び町が抱える課題を積極的に情報提供し、町民と町の協働による課題解決に向けてお互い共有し合うため
何のために	町と町民がそれぞれの立場で情報を整理し課題を解決するため
いつ	毎年〇月に提供し合う
どこで	
どのように	
どのくらい	
いくらで	

名称: (仮称)電子瓦版ニュース B 7

誰が	町
誰と	町民など
何を	町広報やインターネットによらない情報発信の手段として、文字情報でない映像と音声中心の情報を提供する
何のために	情報共有と過疎をなくすため
いつ	
どこで	
どのように	
どのくらい	
いくらで	

名称: 少年議会、中高生議会 B 5

誰が	子どもたちが
誰と	町や地域の人たちと
何を	こんな町がいいな、～があったらいいなと思うことをどんどんと発言していく
何のために	大人になったときに、自らが楽しめる町にするため
いつ	
どこで	
どのように	
どのくらい	毎年
いくらで	

名称: 子ども議会 B 6

誰が	小・中学校の児童、生徒など
誰と	町や議会
何を	これからの町の将来を見据えて、こんな町にしたいなどの意見をもらうための「子ども議会」
何のために	未来を担う子供たちに、行政について理解を深めまちづくりに関心を持ってもらうため
いつ	
どこで	小学校区を単位
どのように	
どのくらい	年1回程度
いくらで	

名称: 子どもたちを育てるプログラム B 9

誰が	町民
誰と	子どもたちと
何を	庄内町にある伝統文化(ものづくり等)を継承していく
何のために	子どもたちの育成(庄内町の良さを身をもって感じる)
いつ	人材の発掘ができればすぐに
どこで	
どのように	工芸技術にたけている人たちの組織をつくる
どのくらい	
いくらで	町からの支援

内容とやり方両方を工夫すべきもの

実現性

※人材バンクの活用